



ひと手間厭いとわない看護に感謝 おかげでたくさん親孝行ができたよ

【兵庫県】三木孝良 みき たかよし 73歳

これまで散々親不孝を重ねてきた私は、一体どのように恩返しをしたものかと、いつも悩んでいた。

母が90歳を過ぎるころから、何度も圧迫骨折をするようになり、そのためにとうとう寝たきりになってしまった。私はやっと恩返しができるようになったと、むしろ在宅介護をできることがうれしかった。

そして介護をする中で、母にはこうするほうがより快適だろうと、介護方法や介護用品の改善や考案をし、2004年の兵庫手作り福祉用具コンテストで佳作をいただいた、用をたした後の「おしり洗浄グッズ」には、母もお気に入りの様子だった。

認知症も進み、嚥下機能が低下

した一〇〇歳を過ぎたころに、3度目の入院をした。

私は昼間、病院に付きっきりで看病した。恩返しのために、できるだけたくさんお世話がしたかった。しかし寝返りを打たせ、お茶をくみに行つて帰つてみると、看護師さんが知らずに寝返りを打たせてくれて、また元の体位になっている。これでは私のしていることが、逆に母を苦しめてしまう。そう思った

私は、ワープロで連絡帳を作り、机の上に置くことにした。連絡帳には日時と、作業内容を書いた。すると看護師さんがそれに気付き、連絡帳に書かれていない作業をしてくれた。私もやった作業が無駄にならないので、検温や顔拭きや口腔

ケアなども積極的に行って書く。また長さ15センチ以下のカテーテルなら許可が下りているので、固まった痰の吸引排出も行う。

そしてある朝、病室に行つてみると、連絡帳には「こんなのが取れました」と、ティッシュに包まれた大きな固い塊の痰が置かれている。

「そうきたか、それなら私も負けないぞ……」と、まるで看護の競争になつてきて、ますます楽しい母のお世話になつていった。

規定外の仕事は敬遠されがちな昨今、連絡帳に目を通し、そして書き込む余分なひと手間を厭いとわなかったK看護師さんには、「おかげでたくさん親孝行ができました」と、母亡き今も、心から感謝している。